

# 經濟論叢

第119卷 第6号

---

マヌファクトゥア・ファブリーク・

ラボラトリーウム……………渡 辺 尚 1

TVA における草の根民主主義の構想……………佐々木 雅 幸 20

帝国主義形成期のイギリスの資本輸出と

「多角的決済網」……………中 村 雅 秀 41

財産の権威と国家の権威……………中 谷 武 雄 70

---

昭和52年6月

京 都 大 學 經 濟 學 會

## 記 事

## 経 済 学 会

京都大学経済学会は、5月20日午後2時半より、下鴨糺ノ森の生研会館で次の公開セミナーを開いた。

## 「現代マルクス経済学の動向——哲学と価値論の関連を中心に」

マレー・ウルフソン教授 (オレゴン州立大)

(通訳 京都大学助教授 瀬地山 敏)

## (報告要旨)

ウルフソン教授の論点を要約すると、次のとおりである。現代マルクス経済学においてふたつの試みが続けられている。ひとつはマルクスの哲学・社会思想に関連して、「若いマルクス」に関心をもち、弁証法的唯物論に対しヒューマニズムあるいは疎外の理論を代替させようという試みである。もうひとつはマルクスの経済分析の側面に関連しており、転型問題の検討をとおして、労働価値論に確かな根拠を与えようとする試みである。教授のセミナーのねらいは、これらふたつの相互に独立した試みのあいだに、ありべきひとつの連関を示唆することにある。

置塩・森嶋・シートン・サムエルソン等による転型問題の研究を通じて、(1)剰余価値率が部門間で等しいとすれば、労働価値による生産価格決定の原理は、レオンチェフ型の生産技術による生産価格の決定と数学的には等価である、(2)剰余価値率は価格のタームで規定されていないから、市場で観察できない、さらに(3)労働価値論の意義のひとつは、利潤の源泉を労働の搾取から説明するところにあるが、分析的には商品の価値を、たとえば石油、土地など他の本源的生産要素のタームで規定できるから、利潤は「石油の搾取」にもとづくともいえる、という命題が得られるから、ポジティブな経済分析の視点からみると、労働価値論は擁護できない。しかし労働を「真の社会的費用」と見れば、労働価値説は、価格機構による資源配分を基礎とする市場経済において、労働が過少評価されていることを明らかにしている。したがって労働価値説は、価値にもとづく公正な分配とそれに対応する経済成長の水準など、現代経済に向けて、ひとつの規範を対置するという厚生経済学としての意義をもちうる。

労働価値論は、哲学的にはマルクスが唯物論者としての立場を確立する時期に対応する理論であるが、対象とする経済のポジティブな分析としてよりも、むしろこのように、「真の社会的費用」である労働を中核とする規範的体系として把握するならば、擁護することが可能になるであろう。そして労働価値論に対するこの方向での関心は、ヒューマニストの時期のマルクスに寄せられている、哲学・社会思想の先述した関心と連関する。

ウルフソン教授には *A Reappraisal of Marxian Economics* (Columbia U. P., 1966, 堀江忠男訳「マルクス経済の再検討」), *Karl Marx* (Columbia U. P., 1971) などの著作があり, 昨秋フルブライト委員会の交換教授として来日, 早稲田大学大学院を中心に, 慶応, 一橋, 東大などの諸大学で研究・講義を担当して, この7月に帰国の予定である。

(瀬地山 敏)

## 人 事

### 〔異 動〕

昭和52年4月1日 菊池 光造 助教授 岡山大学法文学部より  
 木崎喜代治 助教授 専修大学経済学部より  
 本山 美彦 助教授 甲南大学経済学部より

### 外 国 出 張

山田 浩之 助教授 (ヨーロッパに於ける都市交通問題の研究)

昭和51年8月18日より1ヵ月間 ドイツ連邦共和国, デンマーク, スイス, 連合王国, ギリシャ

高寺 貞男 教授 (株式会社社会の現状と歴史的研究)

昭和52年3月より1年間 連合王国, アメリカ合衆国, カナダ

石川 常雄 助教授 シンガポール国南洋大学客員教授

昭和52年6月より1年間